

ひだまり読書

一冊読書

いっさつどくしょにん

『一握の砂』 石川啄木 著

『新選名著複刻全集近代文学館〔14〕一握の砂』 名著複刻全集編集委員会／編集

日本近代文学館(918.6-シンセ)

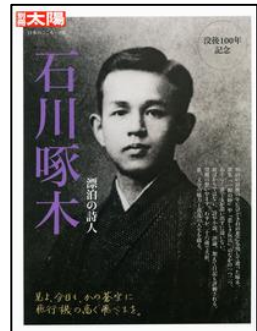
『一握の砂』は、石川啄木の初めての歌集です。「我を愛する歌」「煙」「秋風のころよさに」「忘れがたき人人」「^{てぶくろ}手套を脱ぐ時」の5章からなり、短歌551首が収められています。新しい表現だった一首三行書きを取り入れ、日常の生活や生活感情が率直に歌い上げられています。

啄木は『一握の砂』の広告文の中で「苦勞人や中年の人々」に読んでほしいことを記し、当時若い人たちに限られていた短歌の読者層を広げたいとの期待がこめられていました。

一天折の歌人

石川啄木は、岩手県渋民村に生まれました。盛岡中学校を十六歳で中退したのち、十九歳で堀合節子と結婚します。このとき、宝徳寺の住職であった父一禎が宗費の滞納により免職となり、そのため、妻とさらには父母の生活までが啄木にのしかかることになり、次第に生活が苦しいものとなります。渋民小学校の代用教師や北海道での新聞記者を経て、宮崎郁雨や金田一京助など友人に生活の支援をしてもらい、二十三歳のとき朝日新聞の校正係となります。その傍らで創作活動を始め、明治四十三年(1910年)に『一握の砂』を刊行しました。そして、明治45年(1912年)肺結核により、二十六歳二か月の短い生涯を閉じました。

関連本



◆『石川啄木 漂泊の詩人 没後100年記念』
平凡社 (910.2-イシカ)

◆『石川啄木という生き方
二十六歳と二ヶ月の生涯』
長浜 功／著 社会評論社
(910.2-イシカ)

◆『石川啄木の百首 歌は私の悲しい玩具である。』
小池 光／著 ふらんす堂(911.1-イシカ)

〈参考文献〉

『石川啄木』 山本 和夫／著 ポプラ社
(B28-イシカ)

『作家の自伝 43 石川啄木』
佐伯 彰一／監修 松本 健一／監修
日本図書センター (910.2-サツカ)

昭和
大正
明治

小耳に雑学

元号と改元



2019年5月1日、日本は「平成」から「令和」へ改元されました。

改元のきっかけとなったのは、2016年8月8日の今上天皇陛下（当時）のおことばでした。陛下は、高齢になられ、これまでと同じように象徴としてのお努めを果たしていく難しさを話されました。そのお気持ちを受けて国中で議論が交わされ、天皇の退位に関する特例法が作られたのです。

元号は中国で生まれました。武帝という皇帝が紀元前2世紀ごろ、年の区切りに漢字の名をつけた元号を使ったのが始まりです。その元号が日本へ渡り、使われ始めたのは7世紀頃のことです。アジアには他にも中国の影響で元号を使う国がありましたが、日本を除き、続々と廃止しました。

江戸時代以前は、縁起が良いことが起こった時にはそれが続くことを願い、また、天災があった時には悪い気を払って吉を呼び込むためにと、改元がたびたび行われました。歴代天皇の人数を超える数の元号の歴史があるのはそのためです。明治元年（1868年）、ひとりの天皇にひとつの元号とする「一世一元の制」が定められて以降の元号は、総数248のうち、「明治」、「大正」、「昭和」、「平成」、そして始まったばかりの「令和」の5つだけなのです。

これまで、元号は一度も重複していません。歴史上最も長く続いた元号は「昭和」の62年と14日、最も短い期間で改元した元号は、四条天皇の時代の「暦仁」で73日と、その期間には隔たりがありません。

改元を機に、元号を通して日本史を見つめ直すと新たな発見があるかもしれませんね。

- 〈参考文献〉『元号 全247総覧』 山本 博文／編著 悟空出版（210-0-ヤマモ）
『天皇と元号の大研究 日本の歴史と伝統を知ろう』
高森 明勅／監修 PHP研究所（B28-テンノ）
『これならわかる天皇の歴史Q&A』歴史教育者協議会／編
岩本 努／著 駒田 和幸／著 渡辺 賢二／著 大月書店（288-コレナ）

Y・A ヤングアダルト—大人でも子どもでもない世代—へおすすめする本



『青影神話』

名木田 恵子／著

ポプラ社（Y913-ナギタ）

海笛^{みてき}の胸には、北欧の神・トールのハンマーが封印されています。封印の鍵は海笛の怒り。宿敵である巨人族に見つかり狙われないよう、母・絢は海笛を連れ、暮らす場所を転々と変えてきました。

言いつけを守って生きてきた海笛。けれど、一つだけ母にも言えない秘密を抱えています。それは、^{しょう}響^{なり}という双子との出会いでした。

大人でも楽しめる子どもの本

『さよ 十二歳の刺客』

森川 成美／作 榎 えびし／画
くもん出版（Ｙ 9 1 3－モリカ）



壇ノ浦の戦いで滅びたと思われていた平家。平家の姫・さよは、水中に落とされながらも一命をとりとめ、身分を知られぬまま清原家の養女となりました。

時が経ち、相棒の馬・破魔と共に流鏝馬の腕を上げるさよは、ある決意を秘めます。それは、卑怯な手で平家を滅亡に追いやった源氏を率いていた源義経に、復讐を果たすことでした。



『だれにも話さなかった』

祖父のこと』

マイケル・モーパゴ／文
ジェマ・オチャラハン／絵 片岡 しのぶ／訳
あすなる書房（Ｙ 9 3－モパゴ）

戦争に負った傷により、外見が大きく変わってしまった祖父。目をそらさず自分を見てくれた孫に、今まで、誰にも話したことがない、戦時中自身に起きたことを語ります。

戦争がもたらした祖父の大きな悲しみと、それを素直に受け止める孫の姿が心にしみるおはなしです。



『おりこうねこ』

ピーター・コリンソン／作・絵 いずむら まり／やく
徳間書店（E－コリン）

ずっと待っているのに、飼い主のフォードさん達が忙しくてご飯をもらえない猫のシマシマ。待ちくたびれたシマシマは、ふたをあけてお皿によそい自分でキャットフードを食べました。フォードさん達は「こんなにおりこうだったなんて」と驚きますが、その日からすっかり暮らしが変わってしまい……。本当のおりこうって何だろうと考えさせられる絵本です。

『めぐる森の物語』 いまい あやの／作
BL出版（E－イマイ）

『ヴァンダーカンマー ここは魅惑の博物館』
榎崎 茜／著 上路 ナオ子／画
理論社（Ｙ 9 1 3－カシザ）

『めっちゃウケ！かんたん面白マジック』 中里 正紀／著
ナツメ社（B 7 7－ナカザ）

ふくしま伝書鳩



<新井田沼の水芭蕉>

土湯温泉から車で10分、さらに歩いて20分の所にある新井田沼。周囲約1キロの湿原に数万株の水芭蕉が群生し、4月下旬から5月上旬頃の開花期にはかれんな水芭蕉が咲き誇ります。湿地のある高地なら見つけることはできますが、これだけの面積があるところは少ないようです。ここを発見した人が土湯温泉の有志と相談し、栽培増殖するための湿原保存管理とそれを鑑賞してもらうための道路改修などを行い、土湯温泉の春の名物として脚光を浴びるようになりました。群生地までの道中は湿地特有の柔らかな山道で、道の両端にはからまつ、もみ、つがなどの木立、葛の花、ミズガシワなどの高山植物や同じころ花を咲かせるカタクリも見ることができます。近隣には美しい湖面をたたえる男沼と女沼があり新井田沼を含む一帯が散策コースになっていて隠れた観光スポットとして人気があります。

平成8年4月には皇太子同妃両殿下(当時)も訪れ、震災の翌年にあたる2012年「宮中歌会始め」では雅子さまが新井田沼の水芭蕉の歌を詠まれました。被災した福島の人々を思い詠まれた句だそうです。記念して建立した歌碑が土湯温泉の「偲いの湯」側にあります。春の新井田沼を訪れ、皇后陛下になられたばかりの雅子さまの、福島への思いがこもった歌を味わってみてはいかがでしょうか。

(参考文献) 『ふるさと探訪信夫路 福島市 二本松市 伊達郡 安達郡』 小林金次郎/著 歴史春秋社 (K291. 2-コバヤ)

『ふくしまの遊歩道50選』 福島民報社/編 (K291. 2-フクシ)

『土湯百年 土湯温泉町のあゆみ』 土湯温泉町地区自治振興協議会 (K291. 2-ツチュ)

『土湯通信 永久保存版』 小林しのぶ/編 (K291. 2-ツチュ)



図書室では毎月おはなし会を開いています。ご家族みなさんでお越し下さい。

おひざにだっこのおはなしかい

対象：0～3歳の赤ちゃんとその保護者
日時：毎月第2木曜日 10：30～
内容：絵本の読み聞かせ・手あそび・
わらべうた など

おはなしひろば

対象：4歳～小学生
日時：毎月1回 11：00～
内容：絵本の読み聞かせ・テーマにあわせた本の
紹介、手あそび・わらべうた・工作 など



❖講座などは随時、図書室内の掲示板・チラシにてお知らせしています。

ひだまり読書 第15号 2019年5月発行

編集・飯坂学習センター図書室

〒960-0201 福島市飯坂町字銀杏6-11 TEL024-542-2122

発行・福島市立図書館

〒960-8018 福島市松木町1-1 TEL024-531-6551

ホームページ：<http://www.city.fukushima.fukushima.jp/tosyo-kanri/kanko/toshokan/>

携帯ホームページ：<http://www.city.fukushima.fukushima.jp/mobile/library/index.html>



携帯サイトからも
蔵書検索ができます。

